

きのこの研究

川崎市立日吉中学校 3年 和田 魁利香

本年度の研究内容

- ・きのこの採取と標本づくりについて
- ・オオヒラタケの人工栽培と実験
- ・自宅庭に発生したマンネンタケの観察

1. きのこの採取と標本作りについて

1. 採取地について

昨年では、自宅周辺から夢見ヶ崎動物公園までに限定したものであったが、これまでには採取可能な種類が少なく、年々種類が減少していった。これは、環境汚染・自然破壊が原因で、キノコの発生に必要な菌輪が破壊されたこと、造園設備によるせんていや枯れ木の撤去が行われることで腐朽菌類の発生が困難なものとなつたためである。このため、採取地を大きく広げることとした。夢見ヶ崎動物公園と類似した歴史と環境を求めた結果、東京は武藏野にある井ノ頭自然公園と神代植物公園を選んだ。

今回、採取の多くは、夢見ヶ崎動物公園と神代植物公園である。

2. 写真撮影と分類作業

キノコの多くは地上もしくは木の幹や根元などに発生するため、写真撮影は難しく、かわりの低位置によってかろうじて撮影できるという困難な作業でピント合わせが上手くいかず多くの失敗を見た。

分類については主にオノコの図鑑などを頼りに識別したが、類似したものに関しては、顕微鏡を用いて胞子による識別を行った。

3. 理想的な標本作り

昨年まで標本作りは、自然乾燥「天日干し」で、その後、密閉容器入れたり、採取時の環境を作り箱庭のように飾っていた。しかし、この方法はどの種類にもいえることだが、乾燥後のキノコはどれもかなり収縮と、変形を起こし、何より「美しい色彩」が失われてしまう。図鑑と照らし合わせても、判別が着きにくいう問題が起こる。「どうにかして、形と色を保てる標本を作れないのか」ということが昨年からの問題であった。

検討した標本作り

- ①押し花 → カビが発生(失敗)。
- ②アイロンで押す → 変色がひどく熱で焼かれて
!! 3 (失敗)
- ③クリアカラーのマニキュアでコーティング → 問題外(失敗)
- ④ドライフラワー用乾燥剤(再生可)でドライキノコを作る → 成功!! 理想に近く変色や収縮もひどくない。

* 以上の実験より④で標本を作ることにした。

2. キノコの人工栽培と実験

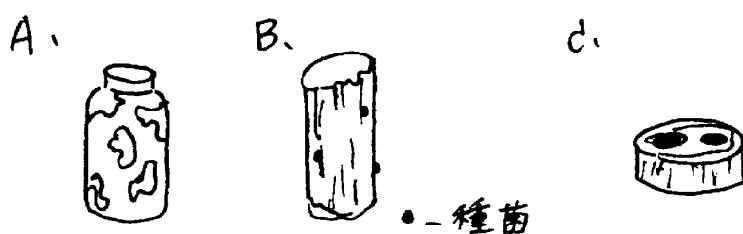
目的：キノコの発生から生長過程を知る。

7月7日、オオヒラタケ菌入りのオオツワガタの幼虫飼育ボトルを購入。木材白色腐朽菌であるオオヒラタケの発生から、生長過程の実験・観察を試みた。

飼育ボトルには…、オオツワガタを、より大きく人工飼育させるために考案、改良された育成ボトルで、ボリ容器の中に入殺菌されたオガツズと米ぬかに食用改良種であるオオヒラタケの菌が植え込まれ培養されたもの。

栽培法：以下の A～C の方法で実施した。

- A、ボトルそのまままで栽培。 B、昆虫用巻き木に種菌の固まりを植えこんで栽培。
C、昆虫用エサ皿に種菌の固まりを植えこんで栽培。



① (A B C 共通) キノコの発生と生長は可能か？

- A、キノコの発生は認められた。 B、キノコの発生は認められた。(A)の種のもの
C、キノコの発生は認められなかった。(小さな物で終わりた)

② (B C) ボトル内で育った菌が、朽木の中でどのように菌糸をはっていいくのか？

A B、はじめから菌糸を張れずに枯れた。

C、種菌と共に植えこまれた範囲内でのみ菌糸を張りキノコの発生が可能となった。

③ (A B C) キノコの生長に遅れができるのか？

A、十分な生長と第2期のキノコ発生となった。

B、キンイロアナタケのみの生長で枯れはじめた。

C、オオヒラタケと確認できる程度のもので終わり、その後、環境の変化はないにも関わらず再生し、他種のキノコの発生も見られなかった。

④ (B C) 他のキノコは生えるか？ また、このとき植えこまれた種菌はどうなるか？

他種のキノコの発生は B のみ。(キンイロアナタケ) オオヒラタケの菌は侵食されたか、死滅かは不明、その後の発生は見られなかった。

C はオオヒラタケの子实体(キノコ)が消めつした後も他種の発見は見られなかった。

実験結果

A. 元々、菌を植え込んだ一定期齢成しれているボトルたねの、はじめから可能性は高いが、発生までの期間が長い。たまり長か。た。発生後は半分程度の子実体(キノコ)が大きくなり生長し、枯れてしまつてまた、ボトル内の他の部分から発生し、生長をつづけた。オオヒラタケは、見ることも初めてなので、この種の形態通りに生長したのかどうかは山からないうが、「日本のキノコ」にある、ビン栽培の「タモギタケ」に比べ余りに不恰好である。ただ、香りはする。

B. 種菌を植え込んだ所からも青カビが発生(後にキンイロアナタケと判明)オオヒラタケは発生せず終った。

C. 植え込んだ種菌の多さからか、菌糸がはり、子実体(キノコ)が詔められるまで数日程である。たが、子実体は6日目には枯れてしまった。その後、発生は詔められない。子実体(キノコ)の生長に必要な栄養が採取できなか。たためと思われる。



